

## (1)看護学部

看護学部では、実践力の高い看護師の育成を目指します。

## (1)基礎看護学(10講義)

講義番号	講義テーマ	講師	専門分野
看-1	<p>看護師自身の体を使って観察するフィジカルアセスメント</p> <p>看護は“観察から始まり、観察で終わる”と言われるほど、“観察”することを大切にしています。その多くは聴診器などの道具を使わず、看護師自身の体だけで観察しているのです。それは皆さんも日常生活で用いている、“目で見たり(視覚)、聴いたり(聴覚)、触れたり(触覚)、嗅いだり(嗅覚)”という方法です。看護師は、人間の身体のどこをどのような方法で観察しているのか、皆さんにも少し体験していただきながらお話しします。</p>	<p>岡本 恵里 (教授)</p> 	基礎看護学
看-2	<p>キズを早くきれいに治すために 根拠に基づいた創傷ケア</p> <p>キズ(創傷)ができたとき、皆さんはどのように対処していますか？創傷を早くきれいに治すため、臨床現場では医学的な根拠に基づいて創傷ケアを日々アップデートしています。看護師が臨床現場で関わることが多い床ずれ(褥瘡)の話を交えながら、日本の創傷ケアがどのように変わっていったのかについてお話しします。</p>	<p>浦井 珠恵 (准教授)</p> 	基礎看護学
看-3	<p>患者さんを感染から守る看護</p> <p>多くの患者さんは抵抗力が低下し、健康であれば感染しないような細菌やウイルスに感染しやすい状況にあります。本来の治療目的の疾患とは別に感染症を発症した場合、入院期間が延長することや、さらには生命を脅かす危険が生じることがあります。</p> <p>そのような危険から患者さんを守るために、看護師が日ごろから実践している感染防止の技術について、正しい手洗いの方法等を体験していただきながらお話しします。</p>	<p>三善 郁代 (准教授)</p> 	基礎看護学
看-4	<p>トントントンで捉えるからだの表現</p> <p>発展した医療技術がない時代から、人々は体の状態を捉えようとしていました。からだは物理刺激に応答します。様々な物理刺激に対するからだの応答を捉えることで、からだの表現を感じとりましょう。</p>	<p>杉森 道也 (准教授)</p> 	基礎看護学

<p>看一5</p>	<p>看護師の頭の中をのぞいてみませんか</p> <p>看護師は一瞬で患者さんの状態を把握し、素早く看護ケアを行うための観察力・臨床判断能力を持っています。看護師が観察している事、頭の中で考えている事を研究データからお伝えし、看護師のような観察力を持つためのヒントをお話します。</p>	<p>林 静子 (准教授)</p> 	<p>基礎看護学</p>
<p>看一6</p>	<p>看護技術を学ぼう</p> <p>～見直そう、自分の手洗い・手指消毒～</p> <p>普段の自分の手洗いや手指の消毒で、本当に手はきれいになっているのでしょうか？汚れは目に見えないものもあるので、きれいになったのか判断が難しいですね。そこで、ATP拭き取り検査により、自分の手洗いを見直してみませんか。この講義では、正しい手洗い方法を身に付ける体験を通し看護技術の学び方を学びます。</p>	<p>岡山 未来 (講師)</p> 	<p>基礎看護学 看護技術</p>
<p>看一7</p>	<p>家族を介護する、家族に介護される人の気持ちを考えてみましょう</p> <p>日本では、多くの人が家族間で介護を行っています。しかし、家族員は様々な事情を抱えており、介護する人とされる人の間で意見の相違が生じ、療養生活に疲れてしまうことがあります。この方たちには手助けが必要です。身近な例から、介護する人、される人の気持ちを考え、手助けの方法について学んでみませんか。</p>	<p>山本 麻理奈 (講師)</p> 	<p>基礎看護学</p>
<p>看一8</p>	<p>足指の力に注目！</p> <p>皆さんは普段、足の指に興味を持って関心を注いだことはありますか？足は身体を支え、立ったり歩いたりするのに重要な役割を果たします。“転倒”や“ロコモティブシンドローム”という言葉を目にしたことがあると思いますが、これらは高齢者だけのことではありません。今から足の指、特に足の指の“力”について一緒に考えてみませんか？</p>	<p>鷲塚 寛子 (講師)</p> 	<p>基礎看護学</p>

<p>看-9</p>	<p>科学的裏付けのある看護技術</p> <p>病気や怪我により、身体を自由に動かせない患者さんもありますが、それは苦痛を伴うばかりでなく、血液循環が悪くなるなど多くの弊害をもたらします。看護師は、クッションを使いながら身体への負担を軽くすることで、患者さんを安楽にする技術を持っています。実験データを用いながら、看護技術のお話をさせていただきます。</p>	<p>細田 恵莉奈 (助教)</p> 	<p>基礎看護学</p>
<p>看-10</p>	<p>認知症とともに今を生きる</p> <p>認知症になると物忘れが酷くなり何も分からなくなるなど、ネガティブなイメージを抱く人も多いと思います。</p> <p>私の行った研究では、認知症になっても“自分は愛され価値ある存在であり、人と繋がっている幸せを実感している”実態が分かりました。こうしたエピソードを通して、認知症と共に生きる体験についてお伝えします。</p>	<p>堀田 美沙 (助教)</p> 	<p>基礎看護学</p>



(2)成人看護学【急性期】(6講義)

<p>看-11</p>	<p>救急医療における看護の役割を考えてみよう</p> <p>ドラマやドキュメンタリーで救急医療に焦点が当てられることもあり、命の大切さを多くの方が理解していることと思います。救急医療現場の中でも看護師は働いており、その役割は大きいものです。怪我や病気で倒れ、気が付いたら病院で治療をうけている患者・家族にとって、看護師の役割について一緒に考えてみましょう。</p>	<p>城戸口 親史 (教授)</p> 	<p>成人看護学 (急性期)</p>
<p>看-12</p>	<p>手術を受ける方やご家族が安心して安全に臨める看護</p> <p>病気や事故により急に手術を受ける、いよいよ受けなくてはならない状況になったら、ご本人やそのご家族は心配され、かつ普段の生活に支障が出やすくなります。</p> <p>手術とはどのような体験なのか、傷や痛みはどうか、食事や排泄、体の清潔はどうなるのか、いつからどのように動けるのかなどをお話します。</p>	<p>栞子 嘉美 (教授)</p> 	<p>成人看護学 (急性期)</p>
<p>看-13</p>	<p>リハビリテーション看護について学びましょう</p> <p>リハビリテーション医療は医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など多くの専門職種スタッフが関わります。</p> <p>リハビリテーションの対象者は何らかの障害をもちその人らしく生きることが困難な人です。その人にふさわしい生活を送るために、リハビリテーションの視点から看護師の役割について一緒に学びましょう。</p>	<p>河相 てる美 (准教授)</p> 	<p>成人看護学 (急性期)</p>
<p>看-14</p>	<p>手術を受ける患者の体と心の状態を整える看護</p> <p>手術を受けたり、急な病気になったりすることで、体の中ではどのような変化が起こっているか、考えたことはありますか？体を守るための防衛反応とはどのようなものか、体の反応が心の調子に与える影響とはどんなものなのか。これらの現象と看護師の関わりの実際を、中学・高校で学んだ知識を使いながら一緒に学びましょう。</p>	<p>寺内 英真 (講師)</p> 	<p>成人看護学 (急性期)</p>

<p>看-15</p>	<p>急性期人工呼吸器ケアの看護と教育</p> <p>集中治療室で使われる人工呼吸器を扱う専門的なナースとは？人工呼吸器を使うと呼吸は楽になるの？呼吸のメカニズムと機械のメカニズムを学び、いかに自然な呼吸に近い安楽を提供できるかに挑戦することの意義についてお話しします。</p>	<p>二本柳 圭 (講師)</p> 	<p>成人看護学 (急性期) 集中治療看護 人工呼吸器ケア 慢性呼吸不全 の包括的呼吸 ケア</p>
<p>看-16</p>	<p>手術室の看護師は何をしているの？</p> <p>医療ドラマで手術室の看護師を見たことがありますか？手術室看護師は、ドラマのようにメスを渡すだけではありません。実際は、手術による患者さんの不安や身体の影響を考慮し、様々な職種とチームを組み手術の安全を守っています。手術室の仮想現実 VR 教材も紹介します。手術室看護師の役割について一緒に学んでみませんか。</p>	<p>竹口 将志 (助教)</p> 	<p>成人看護学 (急性期)</p>

(3)成人看護学【慢性期】(6講義)

<p>看-17</p>	<p>病気と共に生きるとは～ストレスマネジメントの大切さ～</p> <p>病気と共に生きること、身体の状態を悪化させず予防することは、看護において大切な視点です。慢性期とは、比較的安定した状態の対象者への看護を行う時期として捉えます。それには、病気と共に生きることへの援助の大切さ、心と身体のバランスを保つことがどのようなメカニズムで関わっているのか御紹介いたします。ストレスマネジメントの方法も体験して頂き、一緒に学習していきましょう。</p>	<p>片田 裕子 (教授)</p> 	<p>成人看護学 (慢性期)</p>
<p>看-18</p>	<p>がんと診断されたら</p> <p>あなたや家族ががんと診断されたら、どのような気持ちになると思いますか。人は、がんの診断に対して“あたま”と“こころ”が同じように反応するとは限りません。看護師は、がんと診断された方や家族に対して、援助・支援を行っています。そのための基本的な態度・知識・技術について一緒に考えてみませんか。</p>	<p>比嘉 肖江 (教授)</p> 	<p>成人看護学 (慢性期)</p>
<p>看-19</p>	<p>足元から健康を支える看護ケア</p> <p>足は第2の心臓と呼ばれ、身体にとって重要な働きがあります。しかし、足に問題があると歩行や日常生活に大きな影響を及ぼすことがあります。</p> <p>患者さんがいつまでも自分の足で歩き、その人らしい生活を送れるよう看護師が実践しているケアについてお話します。</p>	<p>濱野 初恵 (講師)</p> 	<p>成人看護学 (慢性期)</p>
<p>看-20</p>	<p>抗がん薬による治療の歴史と患者さんの生活</p> <p>「オプジーボ」って聞いたことがありますか？抗がん薬の一つで、この開発を通して本庶佑先生はノーベル賞を受賞されました。薬によるがんの治療は日々新しいものが出てきており、治療も入院から外来が中心になるなど患者さんの生活も変化しています。抗がん薬が働く仕組みと副作用、生活への影響などについてお話します。</p>	<p>大松 尚登 (助教)</p> 	<p>成人看護学 (慢性期)</p>

<p>看-21</p>	<p>「痛み」をケアするとは</p> <p>皆さん「どこかが痛む」という体験があると思います。痛みは身体だけでなくこころの状態など様々な影響で感じ方が変わってきます。看護では、人それぞれの痛みを捉え心身ともに安楽な生活ができるようにケアしていきます。痛みが人にどのような影響を与えるのか、また、どのようなケアが効果的か一緒に学んでいきましょう。</p>	<p>福村 寛子 (助教)</p> 	<p>成人看護学 (慢性期)</p>
<p>看-22</p>	<p>病気とともに生活する人を支える看護～病気とうまく付き合っていくために～</p> <p>もしも治ることが難しい病気になってしまったら皆さんはどうしますか？病気になることで薬を飲んだり食事に気をつけたりなど、それまでの生活が大きく変わってしまうかもしれません。そんな時、看護師はその人が病気とうまく付き合っていくためにどんな仕事をしているのでしょうか？一緒に考えてみましょう。</p>	<p>室谷 寛 (助教)</p> 	<p>成人看護学 (慢性期)</p>

(4) 老年看護学(8講義)

看-23	<p>高齢者のこころとからだ</p> <p>年齢を重ねることで、身体機能の低下や抵抗力の低下、物忘れなど、からだやこころに少しずつ変化があらわれます。年を重ねることはマイナスなイメージが多いかもしれませんが、本当にそうでしょうか？ いつまでも自分らしく暮らしたい、そんな願いを叶えるために、高齢者の心身の特徴について知ることからはじめましょう。</p>	<p>木谷 尚美 (教授)</p> 	老年看護学
看-24	<p>若者と地域高齢者の世代間交流</p> <p>日本では、高齢になっても地域での生活を元気に送る方々が8割以上を占めていることを知っていますか？ 高齢者が一日でも長く自立した生活を継続するには、若者は何をしたらいいでしょうか。看護学生と地域高齢者との世代間交流の実際から、高齢者のヘルスプロモーションに繋がる関わり方を学んでいきましょう。</p>	<p>張 平平 (教授)</p> 	老年看護学
看-25	<p>認知症の人とのかかわり方を看護の視点から学びましょう</p> <p>高齢化が進むにつれて、様々な病気を抱える高齢の方が増えてきています。様々な病気の中で、最も増えると予想される病の1つが認知症です。みなさんの身近な方にもいらっしゃいますか？ その方たちにどのように関わっていけばよいのでしょうか。認知症を看護の視点から学ぶことで、認知症をもつ高齢の方々を理解でき、より親しくなることができます。一緒に学んでみませんか。</p>	<p>青柳 寿弥 (准教授)</p> 	老年看護学
看-26	<p>介護施設で働く看護師って何するの？</p> <p>健康上の問題などから自宅での生活ができない高齢者のための場所として介護施設があります。介護施設では、看護職や介護職など、さまざまな職種のスタッフが高齢者の生活を支えています。介護施設で生活する高齢者が、毎日どのように過ごしているのか、また、看護職がどのように高齢者の生活を支えているのかをお話します。</p>	<p>伊藤 裕佳 (准教授)</p> 	老年看護学



<p>看-27</p>	<p>“がん”になっても自分らしく生きることができますか？</p> <p>現在、日本人の2人に1人はがんに罹患するとされ、がん患者の多くは高齢者です。医療の発展に伴い、がんが治ったり、より長く生きることが可能となりました。しかし、がんになると日常生活の様々な場面で影響が生じます。</p> <p>高齢のがん患者がいきいきと暮らすためにはどのような支援が必要か一緒に考えてみましょう。</p>	<p>川口 寛介 (講師)</p> 	<p>老年看護学</p>
<p>看-28</p>	<p>高齢者の魅力について考えよう</p> <p>核家族が多い中で高齢者が何となく苦手という方も多いかもしれませんが、高齢者は長い人生経験から様々な知恵を授けてくれる人生の先生です。また、こんな風に歳を重ねたいという目標となったり、高齢者看護を通しての充実感や達成感など、得られる事は多くあります。一緒に高齢者の魅力について考えてみませんか？</p>	<p>稲村 尚子 (助教)</p> 	<p>老年看護学</p>
<p>看-29</p>	<p>歳を取ると身体はどうなる？ ーレクリエーションから学ぶ看護の視点ー</p> <p>高齢者を対象とした医療、介護施設では、心身の健康の維持や向上を目的に、日々様々なレクリエーションが行われています。今回、皆様には高齢者の身体的な変化を疑似体験していただき、レクリエーションに参加してもらいます。その中から、老年看護の視点を考え、学びを深めて行きましょう。</p>	<p>村上 章 (助教)</p> 	<p>老年看護学</p>
<p>看-30</p>	<p>レビー小体型認知症ってどんな認知症？</p> <p>レビー小体型認知症、名前は聞いたことがあってもどんな認知症かイメージはついていませんか？このレビー小体型認知症は幻覚を主として様々な症状を呈する認知症です。家族介護者は介護を通し様々な困難に突き当たっています。実際の家族介護者の体験を踏まえながら、レビー小体型認知症の特徴や介護についてお話しします。</p>	<p>米山 真理 (助教)</p> 	<p>老年看護学</p>

(5)小児看護学(4講義)

<p>看一31</p>	<p>児童虐待、なぜ起こる？</p> <p>児童虐待は、一部の特殊な家庭で起こる訳ではなく、皆さんの身近でも起こっているかもしれません。しつけだから大丈夫、愛情があるから問題ないのでしょうか？虐待が起こる原因やその影響について理解した上で、皆さんが必要な時に行動できるよう、一緒に学んでみませんか？</p>	<p>寺井 孝弘 (准教授)</p> 	<p>小児看護学 児童虐待予防 次世代育成</p>
<p>看一32</p>	<p>身体的・知的に重い障害を抱えながら地域で生きることについて一緒に考えてみませんか？</p> <p>近年、周産期や新生児期の医療の高度化により、今までには助けられなかった命が救えるようになり、助かった命は、一生涯障害をもって生きることとなり、支える家族は、育児だけでなく、療育や時には医療をも余儀なくされ大きな負担を抱えることとなります。重い障害で困っているお子さんやご家族に対する関わり方や、社会支援について一緒に学んでみませんか。</p>	<p>高木 園美 (講師)</p> 	<p>小児看護学 重症心身障害 児(者)</p>
<p>看一33</p>	<p>人の個性や人格は、どうやって形成されるのでしょうか。赤ちゃんが社会に適応し、自己を形成していく過程について学びながら、その成長を育む関わりについて考えてみましょう。</p> <p>同じ出来事を経験しても、「受け取り方」や「ものの見方」は人によって違います。個人の気持ちや行動は、頭に浮かんだ「考え＝認知」から影響を受けます。この認知の始まりは、いつから形成されるのでしょうか。講義を通して、人が社会の中で適応する力を育むために必要な体験について、赤ちゃんの発達の段階から考えます。</p>	<p>若瀬 淳子 (講師)</p> 	<p>小児看護学</p>
<p>看一34</p>	<p>食物アレルギーについて学んでみよう！</p> <p>食物アレルギーをもつ人が増えてきていると言われています。原因となる食品が卵や小麦であることはよく耳にしますが、その他にも様々な食品でアレルギー症状がおきることを知っていますか？食物アレルギーは、時に生命を脅かすこともあります。食物アレルギーについて、皆さんも一緒に学んでみませんか？</p>	<p>松本 美子 (助教)</p> 	<p>小児看護学</p>

(6)母性看護学(8講義)

看一35	<p>ライフサイクルにおける健康課題を乗り越えよう！</p> <p>人間の一生である乳児期から老年期の間には、誰もが経験する各期に特有の健康課題があります。健康課題を解決するには、課題の捉え方の視点や理論の活用が有効となります。具体的な事例をもとに、その方法を紹介いたします。これらを通して自分自身のライフサイクルと健康課題を考える機会としましょう。</p>	松井 弘美 (教授) 	母性看護学
看一36	<p>母乳育児が世界を救う？！</p> <p>赤ちゃんをどのような栄養方法で育てるか決めるのはお母さんの権利です。どのような栄養方法を使っても赤ちゃんが健康に育つことが一番大切ですが、母乳育児には子どもの時だけではなく大人になっても続く様々な重要性があることをご存知でしょうか。</p> <p>母乳育児推進県をうたう富山県で母乳育児について学んでみませんか？</p>	小林 絵里子 (准教授) 	母性看護学
看一37	<p>看護を学ぶとはどんなことでしょうか？ 新しいいのちを迎える人々への支援から考えてみよう。</p> <p>女性が一生の中で産む子どもの数が減ってきており、赤ちゃんの子育てに悩む方が多くいらっしゃいます。生まれたばかりの赤ちゃんは私たちが思っている以上に素敵なサインを送ってくれています。このサインから親子の相互的な関係性を育み、触れ合うことの大切さを体験しながら親になる事への支援について、そしてそこから看護について考えてみましょう。</p>	村田 美代子 (准教授) 	母性看護学
看一38	<p>エコーで看護はどう変わる？～看護×工学の可能性～</p> <p>患者さんのケアにあたって観察は看護の基本です。看護師もエコーと呼ばれる超音波検査を活用することで、患者さんに苦痛を与えることなく身体の中を観察することができます。エコーを使うと看護がどう変わるのかを一例に、看護と工学を融合させた看護理工学という学問領域について紹介します。</p>	北島 友香 (講師) 	母性看護学

<p>看-39</p>	<p>将来の親になるために、今からできる準備を考えましょう</p> <p>妊娠によって、女性は身体的に大きな変化があるとともに心理面も様々な変化があります。母親とともに父親や周りの家族も赤ちゃんを迎えるための準備が必要です。親になるために妊娠中にどのような準備があるのか。将来、新しい家族を迎えるために今からどのような準備ができるのかを一緒に考えていきましょう。</p>	<p>岡田 麻代 (助教)</p> 	<p>母性看護学</p>
<p>看-40</p>	<p>赤ちゃんについて知ろう！</p> <p>みなさんは赤ちゃんに触れ合ったことがありますか？核家族化の進む現代では、初めて触れる赤ちゃんが我が子という方も増えてきています。初めて赤ちゃんに触れるときは誰でもドキドキしますよね。</p> <p>赤ちゃんの特徴を看護の視点から捉え、実際に触れ合う際のポイントについて一緒に考えていきましょう。</p>	<p>三加 るり子 (助教)</p> 	<p>母性看護学</p>
<p>看-41</p>	<p>医療現場で外国人患者さんと出会ったら？ ～国際化における看護について学ぼう～</p> <p>近年国際化が進む中、日本における外国人登録者数は増加しています。医療現場においても、外国人と接する機会は多く、言葉や文化の壁が問題となっています。実際に外国人の方から聞いたお話を交えながら、私たちに求められる国際的な視点を持った看護について、一緒に考えてみませんか。</p>	<p>西村 香織 (助教)</p> 	<p>母性看護学</p>
<p>看-42</p>	<p>赤ちゃんとお母さんの生活をのぞいてみよう。</p> <p>皆さんは、生まれた後、赤ちゃんとお母さんがどのように過ごしているのか知っていますか？</p> <p>赤ちゃんとお母さんがどのように過ごすのかを知り、自分や周りの人に赤ちゃんが生まれた時に何ができるのか考えてみましょう。</p>	<p>村上 利矢子 (助教)</p> 	<p>母性看護学</p>




(7)精神看護学(4講義)



看-43	<p>「うつ」を予防しよう</p> <p>精神看護学は、こころの健康を扱う領域です。 皆さんは精神疾患について知っていますか？精神疾患は10代で急増するといわれていますが、その中にはパニック障害などの不安症、うつ病、統合失調症といったものがあります。今回は「うつ」を取り上げ、認知面に焦点を当てた抑うつ予防についてお話します。</p>	<p>田中 いずみ (教授)</p> 	精神看護学
看-44	<p>「怒り」って何？</p> <p>普段の生活の中でイライラしたりカチンとくることはありませんか？腹が立って言い過ぎてしまい後悔したり自己嫌悪に陥ったことはないですか？「怒り」を周囲にぶちまけたり我慢したりせず、上手にコントロールしながら付き合い合っていく方法を一緒に考えてみませんか。</p>	<p>杉山 由香里 (講師)</p> 	精神看護学
看-45	<p>認知症者の行動・心理症状への対応について学びましょう</p> <p>認知症者の7～9割に行動・心理症状と呼ばれる、抑うつ、不安、不眠、興奮、異常行動等の症状が出現するとされており、ケアする際の悩みの種となることがあります。認知症者の行動・心理症状にどのように対応すればよいかについて、事例の提示等を行いながらお話いたします。</p>	<p>遠田 大輔 (講師)</p> 	精神看護学
看-46	<p>ストレスとうまく付き合い合おう ～香りでセルフケア～</p> <p>ストレスとうまく付き合い合ふことは、病気の予防や充実した生き方にもつながります。ストレスとはなにか？そしてストレスへの対処の仕方を考えてみましょう。自分のできるセルフケアとしてのアロマセラピーを紹介します。</p>	<p>浜多 美奈子 (助教)</p> 	精神看護学

(8)在宅看護学(4講義)

<p>看一47</p>	<p>自宅で医療的ケアを受ける人の看護</p> <p>病気や障がい等で人工呼吸器をつけて生活する人や24時間点滴をする人、また体にチューブをつけながら家族と自宅で生活をしている人が増えています。そのような医療的ケアを受けている人と家族の実際とその生活を支援する訪問看護についてお話しします。</p>	<p>河野 由美子 (教授)</p> 	<p>在宅看護学</p>
<p>看一48</p>	<p>ときどき入院、ほぼ在宅 ～「住み慣れたおうちで生活したい」を支える～</p> <p>患者さんは入院治療が終わった後、病気や障害、老いによる生活のしづらさを抱えながら生活の場に戻って行かれます。住み慣れた家・地域で生活したいと言う患者さんや家族さんの思い・願いを実現するために、看護師がどのような役割をもち、どのような方法で支援していくと良いでしょうか。一緒に学んでみませんか。</p>	<p>北林 正子 (講師)</p> 	<p>在宅看護学</p>
<p>看一49</p>	<p>精神疾患をもつ方の強みを活かした在宅での看護について学んでみませんか？</p> <p>近年、精神科での退院が促進され、地域で暮らす精神疾患をもつ方が増えてきました。私たち看護職は、地域で暮らす精神疾患をもつ方の強みや魅力を引き出し、その方の「夢」を叶えるため一緒に歩む伴走者となります。「伴走者」ってどのようなことをするのでしょうか？在宅での精神疾患をもつ方の看護を学んでみませんか。</p>	<p>山崎 智可 (講師)</p> 	<p>在宅看護学</p>
<p>看一50</p>	<p>訪問看護ってどんな仕事？</p> <p>皆さんは、訪問看護について知っていますか？病気や障害があって日常生活が難しい人も、私たちと同様に自宅で過ごしたいという気持ちをもっている人は多くいます。そんな人々の日常を支えるために、自宅を訪問し、看護を行う訪問看護師がいます。病院の外で、活躍している看護師の仕事についてお話しします。</p>	<p>枝川 奈都美 (助教)</p> 	<p>在宅看護学</p>

(9)地域看護学(6講義)

看-51	<p>地域を看護するってどういうこと？</p> <p>皆さんの看護職のイメージは、ほとんどが病院で患者さんのケアを行う看護師だと思います。でも実は看護職は行政機関や企業、福祉施設等、様々な分野で活躍しています。今回は主に行政職として地域を看護している保健師の活動を中心に紹介します。キーワードは「予防」「健康寿命」「ネットワークと場づくり」です。このワードをもとに地域を看護する方法について具体的な事例を提示しながらお話しします。</p>	越田 美穂子 (教授) 	地域看護学
看-52	<p>まちの健康診断と誰もが暮らしやすいまちについて考えてみよう</p> <p>人に個性があるように、私たちが住んでいるまちも、大都会、自然が豊かな地域、冬の積雪地域などそれぞれに特色があります。そこで暮らす人たちの健康状態や健康行動にも地域性があります。赤ちゃんから高齢者まで、健康な人も障害を持つ人も、みんなが暮らしやすいまちについて考えてみましょう。</p>	佐伯 和子 (教授) 	地域看護学
看-53	<p>ICT を活用した高齢者の認知症予防対策とは</p> <p>運動習慣の少ない高齢者でもストレスが少なく楽しく運動継続でき、オンラインでも活用できる「e-鳴子の体操」の紹介や、認知症予防の効果についてウェアラブル NIRS を使用した脳の血流量の測定についてなど、ICT 機器を活用した認知症予防対策について紹介いたします。</p>	清水 暢子 (准教授) 	地域看護学
看-54	<p>地域で自分らしく生活するために</p> <p>地域看護を行う保健師は、病気や障がいを抱えた方のみではなく、病院に行ったことがない方も対象として看護を実践します。</p> <p>病気にならないために、また、病気や障がいがあっても、今以上、悪化しないように支援を行います。</p> <p>今回は、地域で自分らしく生活するために行っている看護についてご紹介したいと思います。</p>	朝倉 理映 (講師) 	地域看護学

<p>看-55</p>	<p>テクノロジーとの向き合い方:子育てで大切なこと</p> <p>デジタル時代の子育てにおいて、テクノロジー使用と向き合い方に焦点を当てた講義です。育児におけるスマホやSNSの適切な活用、情報リテラシーについて研究成果をもとに紹介します。さらに、テクノロジーのさらなる進展が見込まれる中、親が子育てで何を大切にすると良いのかを一緒に考える機会を提供します。</p>	<p>大西 竜太 (講師)</p> 	<p>地域看護学</p>
<p>看-56</p>	<p>認知症予防のための生活習慣</p> <p>認知症の根治的な治療法はまだ見つかっていませんが、様々な研究から認知症を予防する方法が少しずつ分かってきました。認知症にならないようにするにはどうしたらよいのでしょうか？富山県の実態調査の分析をもとに、その方法について、生活習慣・生活習慣病を中心にお話します。</p>	<p>中堀 伸枝 (講師)</p> 	<p>地域看護学</p>